

『閃け! 棋士に挑むコンピュータ』刊行記念サイエンス・カフェ&サイン会

夢は「アトムを作りたい」 ～コンピュータ将棋から人工知能に挑んだ男～

【日 時】2011年3月12日(土) 17:00~18:30 【定 員】100名(椅子席80名)

【場 所】紀伊國屋書店札幌本店 1Fインナーガーデン 【参加費】無料(申し込み不要)
札幌市中央区北5条西5丁目7番地 sapporo55ビル ※当日は直接会場にお越し下さい

※サイエンス・カフェ終了後18:15頃より、松原仁さん、田中徹さん、難波美帆さんのサイン会を実施いたします。

サイエンス・カフェ『夢は「アトムを作りたい」～コンピュータ将棋から人工知能に挑んだ男～』

2010年10月、情報処理学会が製作したコンピュータ将棋システム「あから2010」が、清水市代女流王将と対局し勝利した。将棋を題材に人間の知能を追い求め、それを超えることを目標にして約半世紀。一人の科学者の夢が叶った瞬間だった。

松原氏が将棋を人工知能研究の題材に選んだのは、将棋がまさに人間の知性を象徴する「ヒューリスティック」の宝庫だから。ヒューリスティックとは、人間が初めての場面に遭遇してもだいたい間違いのない解を出したり、直観や閃きと呼ばれる、論理ではなかなか解明できない能力を指す。

ヒューリスティックを究極に実現しているのが、棋士の最高峰、名人や竜王たちだ。この能力をコンピュータで実現することにとり組み35年。情報処理学会の「あから2010」プロジェクトの研究者たちは、ついに人間のトップ・プロとの6時間に及ぶ対局を制した。松原氏は、「コンピュータ将棋は2015年に名人に勝てる」と予言している。羽生善治名人あるいは渡辺明竜王と対局し、勝る日は本当に来るのか。

プロジェクトを率いた一人、はこだて未来大学、松原仁教授を招いて、人工知能研究の未来、アトムが実現する日について話をうかがう。



1,680円(税込)
好評発売中!

■ゲスト 人工知能の伝導師 松原仁 公立はこだて未来大学教授



松原 仁(まつばら・ひとし)

1959年、東京都出身。東京大学大学院情報工学専門博士課程修了後、通商産業省(当時)の工業技術院電子技術総合研究所に入所。2000年に、開学と同時に公立はこだて未来大に着任。将棋などゲームや、ロボットによるサッカーを題材に、人工知能研究に取り組む。2010年、清水市代女流王将(当時)を破ったコンピュータ将棋システム「あから2010」を開発した情報処理学会の特別プロジェクト副委員長。

■ファシリテーター(司会進行)



田中 徹(たなか・てつ)

1973年、北海道生まれ。北海道新聞記者。2006年、新聞労連ジャーナリスト大賞優秀賞を受賞した連載企画「あなた見られています——監視と安全のはざまで」に取材メンバーとして関わり、テクノロジーが生活や社会に及ぼす影響に関心を持つ。情報技術による人間・社会の変容や、少し先の未来を描いていきたいと考え、日々取材活動が続ける。



難波美帆(なんば・みほ)

1971年、徳島県生まれ。早稲田大学政治学研究科准教授。サイエンス・ライター。講談社の小説編集者を経て科学・医療を中心にフリーランスの編集・記者になる。2005年、北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット准教授。2010年4月より現職。科学・医療の分野で人々を幸せにするコミュニケーションを追求すべく、研究・取材などの活動を重ねている。

【主 催】紀伊國屋書店・梧桐書院

【お問い合わせ】紀伊國屋書店札幌本店 tel.011-231-2131